

第9回「日本医師会 赤ひげ大賞」受賞者紹介

(順列は北から：敬称略)

「赤ひげ大賞」受賞者（5名）

■北海道医師会推薦 ^{ますだ てつぞう} 升田 鉄三 医師 66歳 北海道礼文町国民健康保険船泊診療所 所長



礼文島唯一の医師として長きにわたり地域医療に貢献してきた。診療所では、人工透析器2台を備え、稚内市の精神神経科と連携して、精神科のオンライン診療も行っている。MRIやCTも設置し、上部・下部内視鏡検査・超音波検査を充実することで、島内での検査・治療を可能にするだけでなく、島内申請者全員の主治医意見書の作成や特養への月2回の訪問診療を実施。毎月、医療・保健・福祉関係者と在宅医療患者の情報交換も行っている。

■岩手県医師会推薦 ^{ふじい としじ} 藤井 敏司 医師 70歳 藤井小児科内科クリニック 院長



町唯一の小児科開業医として、昭和58年から地域の子どもの健康管理に人生を捧げている。東日本大震災の際には甚大な被害を受け、自宅、診療所、分院、全てが津波に飲み込まれ、自衛隊の救助で高台の体育館に避難したが、そこでも避難者の対応に当たった。一時、体調を崩し入院加療するが、小児科医院の再開を強く希望する地元の声に応え、診療所を再開し、地元住民に寄り添い、地域の復興と医療の再生に現在も尽力している。

■茨城県医師会推薦 ^{すずき なおふみ} 鈴木 直文 医師 67歳 慈泉堂病院 理事長



^{ゆかり}所縁のない町に開業し、24時間体制で希望する患者を昼夜問わず受け入れ、訪問診療も実施、往診にも対応している。病院の敷地内にある自宅では、いつ呼び出されても常に対応できるように備えており、患者に対する熱意は並々ならぬものがある。令和元年10月の台風19号は町に甚大な被害をもたらし、病院は床上浸水で1階部分が機能停止。他の病院も同様で、町内の医療機関が麻痺した際にも床の汚泥除去から復旧に努め、3日後には外来患者、救急患者の受け入れを始めた。

■石川県医師会推薦 ^{いとう ひろし} 伊藤 博 医師 98歳 伊藤病院 名誉院長



日本陸軍医学校卒業後、金沢陸軍病院の教育隊長として従軍。昭和23年の福井地震の際には防疫体制確保のために尽力した。胃がんの診断治療の技術向上に努め、昭和29年より北陸初の胃カメラ臨床応用を開始するなど、多くの早期胃がん患者の治療に貢献。昭和39年に伊藤内科を開設後は、X線テレビ室、内視鏡室、臨床検査室を設置し、当時の先進的な取り組みを行った。「黄泉からのお迎えがあった時が、自分の現役が終わる時」として、今も現役で診療を続けている。

■広島県医師会推薦 ^{かじお なおみ} 梶尾 直美 医師 85歳 沖野上クリニック 院長



福山市において昭和41年から54年間の献身的な診療を通じ、地域住民から「かかりつけ医」として絶大な信頼を寄せられている。小児科医として将来を担う子ども達の心身に健やかな育成を目指して、疾病の早期発見・早期治療と予防、保護者に対する健康指導など、母子保健活動にも積極的に取り組んでいる。平成12年に福山市医師会が、二次救急病院の負担軽減を図るために福山夜間小児診療所を開設後は、多忙の中、協力医として20年間出務した。

「赤ひげ功労賞」受賞者（13名）

^{おおたけ すずむ} 大竹 進 (青森県)
^{げっか まこと} 月花 亮 (静岡県)
^{やまと ひでお} 大和 秀夫 (徳島県)
^{な か かつお} 名嘉 勝男 (沖縄県)

^{おがわ いくお} 小川 郁男 (埼玉県)
^{いしい しろう} 石居 志郎 (京都府)
^{かめい としみつ} 亀井 敏光 (愛媛県)

^{ほしの きょうこ} 星野 恭子 (東京都)
^{みやした ひろみち} 宮下 弘道 (大阪府)
^{きしもと のりお} 岸本 範男 (高知県)

^{ひろせ けんいち} 廣瀬 憲一 (神奈川県)
^{いしざき みつあき} 石関 光朗 (和歌山県)
^{たけのうち ひろまさ} 竹ノ内 弘昌 (福岡県)

年齢は2021年1月6日現在

「日本医師会 赤ひげ大賞」について

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、公益社団法人日本医師会と産経新聞社が主催となり「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰すること」を目的として、平成24年に創設したものである。

【後援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ

【協力】都道府県医師会

【特別協賛】太陽生命保険株式会社

【対象者】

病を診るだけでなく、地域に根差し、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会及び都道府県医師会の会員で現役の医師（ただし、現職の日本医師会・都道府県医師会役員は除く）。

【推薦方法】

各都道府県医師会会長が1名を推薦

選考委員

羽毛田信吾（昭和館館長、前宮内庁参与）
向井 千秋（東京理科大学特任副学長、宇宙航空研究開発機構特別参与）
檀 ふみ（女優）
ロバート・キャンベル（国文学研究資料館館長）
河合 雅司（作家・人口減少対策総合研究所理事長）
迫井 正深（厚生労働省医政局長）
釜菴 敏 （日本医師会常任理事）
城守 国斗（日本医師会常任理事）
鈴木 裕一（産経新聞社上席執行役員）
乾 正人（産経新聞社執行役員論説委員長）

（敬称略）

【表彰式・レセプション】（予定）

令和3年3月5日（金）午後5時～ パレスホテル東京